

第9回インフルエンザ制圧国際会議 (Options IX for the Control of Influenza)参加報告

(2016年8月24日～28日, シカゴ)

高下恵美

国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター第一室主任研究官

インフルエンザ制圧国際会議(Options for the Control of Influenza)は1985年に米国コロラド州キーストーンで始まり、現在はInternational Society for Influenza and Other Respiratory Virus Diseases (ISIRV)の主催で、3～4年ごとに世界各地で開催されている。2016年8月24日～28日の5日間、米国イリノイ州シカゴで開催された第9回会議(Options IX)に参加したので報告する。

Options IXの会場となったシェラトングランド・シカゴは街の中心に位置しており、各地からのアクセスも良く、南アフリカのケープタウンで開催された前回会議を凌ぐ1,350名以上の参加があった。Options IXでは、「Public Health」「Virology & Pathogenesis」「Clinical Science」の分野別に演題募集があり、最終的に800を超える演題が集まった。会期中は連日、メインホールでのMorning Plenary Sessionの後、3会場に分かれて分野ごとのシンポジウムならびに一般演題発表が行われ、夕方からは展示ホールにおいてポスター発表が行われた。分野ごとの

発表会場は聴衆が入りきれず廊下にも人が溢れるほど盛況で、急遽、広い会場が準備される場面もあった。

初日のOpening Plenary Sessionでは、米国疾病予防管理センター(Centers for Disease Control and Prevention ; CDC)インフルエンザ部門の前部門長Dr. Nancy J. Coxによる基調講演があった。Dr. Coxは世界保健機関(World

Health Organization ; WHO)が指定する5カ所(東京, アトランタ, メルボルン, ロンドン, 北京)のインフルエンザ協力センター(Collaborating Center ; CC)のうちアトランタの前センター長でもあり、本講演では「Our Greatest Challenges in Influenza Detection, Prediction and Prevention」とのタイトルで、WHO CCならびに

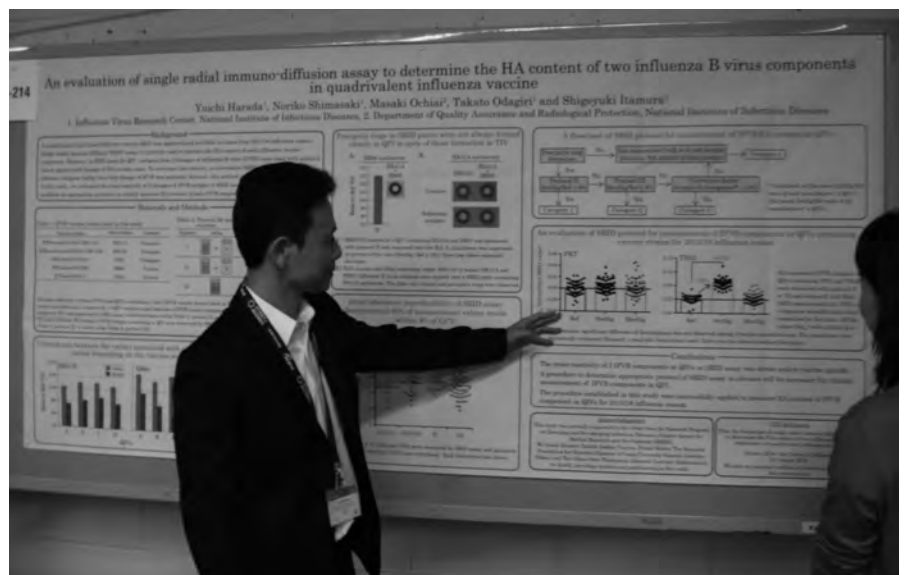


写真 ポスター会場での発表